

「考える力」を育む授業づくり研究会 & 学習指導研修会

(小学校算数・小学校外国語・中学校国語・中学校社会)

— 令和元年度 研究テーマ 各教科共通で育成を目指す資質・能力 —

「課題解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方・考え方が

広がったり、深まったりしたことを自覚できる力を育成する」

昨年度に引き続き、今年度も各教科共通で育成を目指す資質・能力を設定し4教科部会に分かれて授業研究を進め、学習指導研修会において提案授業をしていただきました。「『子供たちの学びの深まりが学力につながっていく』という話が全体会であったが、その学びを子供たち自身が実感してこそ深まり、広がっていくのだということを強く考えさせられた」と、ある教科研究員の先生がおっしゃいました。「学ぶ側の思考に立ち、子供の興味・関心と付けたい力のバランスを考えて単元や授業を構想していく」という『おきたまの教育』で提案している授業を、今年度の本研究会において具現化していただきました。

教科研究員の先生方と共有した、各教科等の実践から学びたいことや今後大事にしたいことをまとめました。ぜひ各学校やご自身の実践に生かしていただきたいと考えます。なお、指導案はHPに掲載しております。

中学校国語（2年）

地球の未来の話をしよう～根拠を明確にして、自分の考えたことが伝わるようにまとめよう～

「モアイは語る—地球の未来」

米沢市立第一中学校 羽生田 芽依 教諭



視点1:主体的な学びにつながるための、単元を貫く課題意識を設定する

視点2:根拠と意見の結びつきに着目することで深まった学びを客観的に評価する

「自分の考えを600字程度の文章を書く」という言語活動を設定し、文章を書くために、考えとその根拠となる資料の結びつきの妥当性を検討するという**単元全体の課題を生徒と共有する**ことから単元をスタートした。その課題を解決するために対話する場面を設定し、「結びつき」をキーワードに、書こうとする根拠が自分の考えを支えるものであるかどうかという**根拠の適切さを評価**し合った。自分の書いた文章を何度も読み直し、自分の考えが足りないことや根拠が弱いことなどを自覚することができた。**対話や振り返りの視点**として3つのポイント(①自分の考えがはっきりしているか②考えを裏付ける根拠が明確か③考えと根拠の結びつきが適切か)を示したことで対話や振り返りにおいて、結びつきの妥当性を考えることができた。

小学校算数（1年）

「かたちづくり」

白鷹町立荒砥小学校 今 幸恵 教諭

視点1:着目する(考える)視点を明確にした数学的な活動を仕組む

視点2:どう考えたのかを問い、解決の着眼点を明らかにする

算数に関する悩みとして、学力の個人差が大きいことがよくあげられる。そこで、本単元では、**児童一人一人が「何ができ何ができないのか」という実態を明らかにしたうえで、単元で付けたい力を児童の姿で具体化することから**授業を構想した。本時では、**色板の枚数に着目して操作活動をする**ことによって、影絵の中に既習のかたちがあることを捉え、「影絵の中に見えない線を見つける」という解決のコツを児童が発見できた。色板を手がかりにして、その後の学習では**補助線の意味や有用性を理解することができ、確かな学びにつなげる**ことができた。また、本時の学びを支える学習として、前時まで2枚の色板を使った操作活動を十分行っている。この経験が、図形を既習の基本図形の合成としてとらえる力の素地となり、その後の学習を支える数学的な見方・考え方につながっていた。

中学校社会（3年）

「消費生活と経済」

米沢市立第二中学校 坂川 拓磨 教諭

視点1:授業のねらいに沿った交流場面の設定により、単元の学びを確認する

視点2:振り返りをとおして、「消費者」としての認識を新たにすることを実感する

思考ツール（クラゲチャート）を使ってグループの考えをまとめたことで、お互いの考えを比較しやすくなり、ワールドカフェ方式の交流のよさを生かしながら、それぞれの考えを広げることができた。「賢い消費者」をキーワードに、「消費者としてあるべき姿」について、**単元を通して生徒が考える単元構成**とした。**単元を通じた課題を設定することで、既存の知識や中学生なりの経験と学んだことを関連付けたり、結び付けたりしながら、「効率と公正」「希少性」「法の支配」等の概念に着目して、よりよい消費生活について自分事として考えることができた。**本時では、関係法令等を手がかりに事例を検討し、消費者の権利や企業の責任について考えた。**多面的・多角的に考えることができる資料の選定**についても、考えを広げたり深めたりする手立てとして大事にしたい点である。

小学校外国語（5年）

「She can run fast.He can jump high. できること」

川西町立小松小学校 星 なつみ 教諭

視点1:互いの考えを伝え合うために、主体的にやり取りできる言語活動を仕組む

視点2:語句や表現を繰り返し用いてやり取りし、振り返ることで学びを実感する

「**友達の意外な一面を知る**」という言語活動を設定したことにより、友達の言っていることの意味を逃さず聞こうとしたり、聞き取ったことに対してジェスチャーやうなずきなどの身体表現を用いて反応したりするなど、**表現に慣れ親しもうとする態度の育成**につなげることができた。**中間評価**を行い、**児童自身が今できていることとできていないことを自覚する場面**を設定した。このことにより、その後の活動のなかでやりとりの質を高めようとする児童の姿が見られ、一層本時のターゲットフレーズに着目することができた。このようなやり取りを繰り返すことにより、言語材料を適切に活用することにつながっていく。



今年度の取組みから、授業改善の視点を次のように提案します！

◇目標-指導-評価が一貫している単元・授業づくり

= 目標設定で大事にしたいこと =

- ①児童生徒の実態を把握する。「何ができて、何ができないのか」
- ②学習指導要領の指導内容を踏まえている。「何を学ぶのか」
- ③単元（授業）で目指すゴールの姿を明確にする。「何ができるようになればいいのか」

= 「指導と評価の一体化」の再考 =

- ①目標に到達できた（できている、できそうだ）という学習状況を把握する。
- ②「子供たちにどんな力がついているのか、目標は達成できているか」を評価し、指導の改善につなげる。（評価して足りないところは指導する）
- ③子供たち自身も、「ここまで何が分かってきたのか、何が分からないのか」を振り返る。（自覚・実感）

◇教科等特有の見方・考え方を働かせながら課題解決をしていく学習過程の重視

- ①各教科等の「見方・考え方」を働かせながら、どんな課題を解決するのかという単元のゴールを、学習指導要領の指導内容に照らして、具体的にイメージする。
- ②学習過程において、子供たち自身が「なぜこの学習をしているのか」を自覚しながら学んでいる。
- ③学習の成果だけでなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫する。

*教科研究員の先生方、学習指導研修会にご参加くださって熱心にご協議いただきました先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

